

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	高等学校のキャリア教育コーディネート事業
事業主体 (連絡先)	伊那弥生ヶ丘高等学校 所在地：伊那市西町5703
事業区分	③ 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	613,694 円 (うち支援金：52,800 円)

事業内容

県教委の「すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びが実現をされるよう、社会で生きる学びの必要性」の方針を受け、外部と連携した「探究的な学び」の授業実践を行ってきた。

【実施日】

- 10月31日(木) SDGsとは 授業
- 11月14日(木) 課題発見授業
- 11月21日(木) 課題発見・解決授業
- 12月12日(木) アントレプレナーシップ授業
- 12月19日(木) 探究課題設定授業
- 1月16日(木) 探究課題設定授業
- 1月30日(木) キャリア学習発表会

【実施対象】

伊那弥生ヶ丘高校1学年生徒 240名

【目標・ねらい】

- ①世界が直面する「持続可能な開発目標 (SDGs) の達成」という世の中の動きを知ることを通して、現状の中での課題解決を思考する。
- ②地域で活躍するさまざまな分野の方々に、地域の現状を話してもらうことを通して、地域に目を向け、地域にある課題を探る。
- ③自身の関心事から、地域の課題を見出し、「総合的な探究の時間」における探究課題の設定を行い、そこに至る経過を互いに発表し合う。

※自己評価 【 A 】

【理由】 県教委から示された「学びの改革基本構想」にのっとり、高校の将来を見据えながら、生徒が地域に目を向け、多くの大人との対話の中で、地域における自己探究課題を見出すことができた。
また、本キャリア教育授業では、これまでの教授型の教育から生徒の自主的な課題解決学習に授業スタイルを変換している点でも、新しい授業を模索していく高校像が見え始めている点からも本事業の効果は大きいと評価している。



事業効果

- ①「学びの改革」にかかわり、先進的に、生徒が主体的に学習に迎えるための授業スタイルの工夫や授業内容の研究がなされた。
- ②学校現場に、地域で働く大人を招き、これからの地域のあり方や活性化に向けて取り組んでいる様子を知り得たことは、生徒が、学校と家庭の往復のみでなく、地域について学びあう素地作りとなった。
- ③支援金を活用して、生徒の学びにかかわる発表会をワールドカフェ形式にしたことは、生徒が互いの思いを聞くだけに終わらず、自己の思いと重ねたり、思いの共有から、新たな地域課題を見出す機会となった。



今後の取り組み

- ①本年度取り組んだキャリア教育は、今後伊那弥生ヶ丘高校において、生徒の高校教育3年間を見通した形でのプログラム化が図られることが望ましいと考えている。
- ②そのために、本事業の実践と継続を行い、伊那弥生ヶ丘高校のキャリア教育プログラムの完成を目指したい。
- ③新2学年については、本年度設定した地域課題を、実際に地域に出て探究することが組まれている。地域活性化の観点からも、高校生が地域の方と交流し、活動することを通して、より身近に地域を感じる機会になると期待し、継続の必要性を感じるころでもある。